ICメルマガ（国際委員会メールマガジン）

GSTC 2025国際会議・アカデミックシンポジウムの開催報告

名城大学名誉教授
二神 真美

グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（GSTC）主催のカンファレンスが、2025年8月5日～8日にフィジーのデナラウ島・ナディで開催されました。GSTCは、持続可能な観光と旅行に関する世界標準のGSTC スタンダード（旧称 GSTC クライテリア）を制定・管理する国際非営利団体で、100を超える国・地域の政府系組織、観光関連の公益団体、ならびに民間企業等の団体会員（2024年の総会員数は491）と個人会員から構成されています。GSTCの主な活動としては、認証機関の認定や地域支援プログラムとしてのデスティネーション・アセスメント、さらには持続可能な観光関連の多様な研修プログラムの提供（2024年は73コースに2365人参加）などが挙げられます。GSTCカンファレンスは通常、毎年１回、持続可能な観光を積極的に推進している国・地域を会場として開催され、持続可能な観光の実践的方法や重要な課題と解決策について議論されます。初日には、持続可能な観光に関連した学術的研究や実践例を発表し意見交換する機会としてアカデミックシンポジウムが開催されます。

2025年のGSTCカンファレンスは、「沿岸および島嶼観光」、「コミュニティ、文化、責任ある開発」、ならびに「気候変動へのレジリエンス、適応、持続可能な復興」の３つを中心テーマとし、4日間にわたって基調講演、学術研究発表、ケーススタディ報告、ならびにテーマに関連した多数のパネルディスカッションやワークショップが行われました。アカデミックシンポジウムでは、午前に4つの分科会、午後には全体セッションにて全部で22の研究発表が行われました。発表にあたって提出したアブストラクト（1000単語以内の拡張抄録）は二人の査読者による審査を経て受理されました。シンポジウムの発表者に対しては、国際ジャーナル*Tourism Geographies* (2026年7月発刊予定)への論文投稿の機会が提供されていることが同編集者から伝えられました。

2025年のGSTCカンファレンスには40カ国以上から約350名が参加し、成功裡に終了しました。会議後には、サンゴ礁の再生ツアー、生物多様性公園でのエコツアー、伝統的フィジー料理体験など８つのエクスカーションが提供されました。今回の会議とすべての参加者の旅行の二酸化炭素排出量は、GSTCの持続可能性パートナーのオーストラリア企業Reforestの植林プロジェクトを通じてオフセットされています。次回大会は2026年4月21日から24日の期間、タイのプーケットにて開催される予定です。

アカデミックシンポジウム全体セッションの様子

アカデミックシンポジウムの発表者とスタッフの集合写真

パネルディスカッションの様子

ワークショップの様子